

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 1月号 (NO21)

2012年1月10日 (火) 発行

【農暦】今年も、既に9日！

○今日は9日である。“今年も、既に9日経ってしまった。あと云う間にお盆になってしまう”という会話をしているのを聞いた。極端に聞こえるが、歳を取ると時の経つのは早いというが、実感である。時間の経過の感じ方は“時間を自分の歳で割る”速さの感覚になるからだ云う。時の経つのが早いと感じるには、何もしなかった、出来なかったと云う反省がそこにはある様な気もする。時間は子供にも老人にも同じに与えられる。若い時は学ぶ事や新たな体験は多い。歳をとると少なくなる。時間を歳で割る式は正しい様に思える。新しいことや学ぶ事が充実していれば、時の経つのも忘れてと云う事もあり、時の経つのが早いような気もするが、記憶の量が多いので、時間の記憶では長く感じるのかも知れない。無為の時間を過ごし結果として思い出や記憶も少なく、時の経つのが早く感じるのであるなら、余命は判らないが時間は大事に使いたいものである。今更やその年での言葉に打ち消されて、新たな挑戦や情熱を傾ける事もトキメキもいつの間にか萎んで来てしまった様である。年の初めは、心に勇気を与える良い機会である。残された時間は多少ではない。今更を始めて見るのもいいと思う。あーと云う間に歳を重ねてしまったでは寂しい。今を機に、刹那刹那を精一杯が出来ればいいと思う。

○畑は枯れ草と凍土であり、リセットされたばかり畑は霜に覆われ白一色である。よく見ると枯れ草の根の所から芽が出て来ている。剪定していないブルーベリーの枝には芽が膨らんで来ている。自然は一時も休んでいない。今年こそは出遅れしない様にと。堆肥を入れる事やハウスの修理など早めに始めたいと思っている。実力をわきまえ、充実の時を刻むためにも、今年の仕込みは7分したいと考えている。霜が解けた午後に残っていたヤーコンの収穫を始めた。今年の冬は以外と寒い。昨年末が温かったからかも知れないが、ヤーコンの傷みは少ない。ヤーコンの収穫作業をしながらいろいろな事を考えている。今年は、反省は少なくしようと思う。

<短歌2首> 年重ね 反省多い 新年に 心だけでも 豊かさ願う
賀状には 希望と願い 同じ我 新たに思う 初春の朝



<雨引観音へ初詣>家族で初詣へ。おみくじは大吉2人と吉2人であった。振る舞われた甘酒を頂き、お守りなどを求めた。日和に恵まれ遠く山が望めた。良い年になって欲しい。2日撮影

【楽農】黒豆のクルリ棒の作業はなかなか！

<ハウス> ; 穴にヤーコン、里芋を保存

そら豆の苗を定植（一部外に）

* どうなるか試すため。

<畑 A> ; 大根、白菜の食材として収穫。

<畑 B> ; 黒豆をクルリ棒でたたいて収穫。

その後 JA の選別機で選別した。

ヤーコン、里芋収穫（残僅かあり）。



<黒豆の収穫>クルリ棒でたたく。中々難しい。グリーンジムで作業する。薩摩芋堀もする。15日撮影。

【楽市】イベント交流・直売など

○グリーンジム本戸倶楽部（12月15日）次回は1月15日

- ・作業；黒豆クルリ棒の作業、残った薩摩芋の収穫
- ・話し合い；前回続き法人化について話し合い準備会的な活動を行う事を決めた。

- ・懇親（忘年の会）；最近有名になった？白菜鍋などの美味と田酒の美酒で“農”についてのなどで1年を語る？忘年の会になった

* kuさん調達の田酒のため中国土産の紹興酒は影が薄かった。竹林整備のための伐採を翌16日に行った。

* いきいき市場は別日程の18日にたい焼きと焼芋をやった。

○笠間ヤーコンの会でそば打ちの会（12月21）

- ・出店は出来なかったがFUさんのりんご園の小屋でそば打ちの会を行った。そばの美味で懇親を深めた。

○初吟会（本間流笠間地区）（9日）

- ・吟詠の初習いの後で懇親の宴を楽しんだ。漢詩や短歌の文化に親しみ大事にしていきたいと思う。



<竹林整備>グリーンジムの翌日にFJさんの竹林の整備をした。ほんの一部だけだが思いのほか大変であった。16日撮影。

【つぶやき=Tweet】「この国のかたち」を読んで

○「この国のかたち」を年末から年初めに読んでいます。本棚にあるのが目に留まったので拾い読みして見た。「坂の上の雲」がテレビで放映され司馬遼太郎が話題になっているので捻くれ者の私はいつもなら読まなかった。一章一話の随筆風に構成され読み易かったことと日本の歴史のテーマ毎の認識の仕方が面白くて読み続けてしまった。歴史教育をこんな風に教えられれば興味が持て社会の見方も変わり、今の世の中ももっと増しになったのではなどと思って読んでいた内に次から次へと読み進んでしまった。6日には、4巻まで読

み終わった。読書習慣に乏しい私は”積んどく書”が多い。テーマや題名や著者で本を買うだけで満足し、読んだ積り（積んどく）が多い。1巻を読み終わった所で、正月に残りを読もうと、6巻まで買ってしまった。3巻目を読み始めた時に、孫娘が1巻から3巻までの同じ本が本棚にあるのを発見した。さらに、ダブリ本を10冊程探し出されてしまった。もったいないやら恥ずかしいやらで、孫娘からはブックオフに持って行ったらと慰め？の言葉を頂いた。



○話が逸れたので元戻すが、読み終わった4巻に「統帥権」の事が4章に亘って書かれている。「坂の上の雲」の時代が終わり、昭和の始まり頃の事である。統帥権の勝手な解釈で政権の中に超政権の国家が作られ軍国ファシズムに走る。かつて日本史にはない異質な国家が作られてしまい日本を滅ぼしてしまった。と述べられていた。暴走の要因は“リアリズムの喪失”であると言っている。暴走を止められず自爆した？「山本五十六」の映画が上映される様だが破滅まで止められなかった。

くそば打ちの会>笠間ヤーコンの会でそば打ちの会を行った。FUさんのりんご園の小屋（炬燵付き）を使わせて貰って行った。車のためノンアルコールで少し寂しかったがそばの美味を味わえた。21日撮影

○今、政権の迷走が続いているが何時になったらと終わるのかと政局的なニュースを聞くたびに思う。国内や国際社会に“リアリズム”の視座を持った政権を望みたい。破綻まで迷走が続いては困る。室町時代は風流人の無能な政権が続いたが、能などの日本文化が隆盛し生産力もアップしたと「この国のかたち」の別の章でも述べられている。無能は時には良い。リアリテーの欠けた政策なら無能の方が増しなのかも知れない。農政についてはバラマキとかいろいろ言われているが、篤農家や農を志す人が活動し易くして欲しと思う。また、食を担うと云う気概を持った農業人を育てる様な農政であって欲しい。邪魔するような事だけはあってはならない。今がラストチャンスかもしれない。最後は農の話にしてしまった。農業大事である。取りとめのない事をつぶやいてしまった。

*酒宴の機会が少なくなったと思っていたらOB会などの忘年会・新年会などとお誘い増えている。なんとなく寂しい思いになっているのかも知れない。酒を交えての会はよいものである。大言壮語は困るが前向きな話は楽しい。今年もよろしくお願い致します。

発行者；Kogure農場・小暮
住所；笠間市本戸4201-10
携帯電話：090-9333-4135
メール；torao-k@nifty.ne.jp
HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>

*笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】